

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム ゆうゆう黒川

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100055		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	グループホームゆうゆう黒川		
所在地	盛岡市黒川7地割37番地8		
自己評価作成日	平成28年12月8日	評価結果市町村受理日	平成30年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100055-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100055-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSi_onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中ノ橋通2-4-16
訪問調査日	平成29年12月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念	① 尊厳を大切にしよう。 ② 「利用者さんの人権を守り心から安心な暮らしを送っていただけるように努めます。
利用者さんの暮らしを大切にすることで、提案やお勧めをしながら決めていただけるように心がけます。また、日々の取り組みが理念に沿っているか振り返りながらプロのサービスパートナーとして成長し続けたいです。 *今年度は接遇に力を入れています！	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人共通の理念の下、事業者独自の運営理念とサービス支援方針を定めている。法人主催の基礎研修を基に、事業所として今年度は「接遇」をテーマとして取り組み、高い意識をもって日常の介護に反映させている。更に、各職員の目標を職員全員で評価しあい、改善を加えて次期の理念実践につなげている。普通の暮らしを目指し、外出、食事、医療受診などの各場面で特別の決まりごとを設けず、利用者が主人公で職員はサポート役という意識で、利用者の思いや意向の把握に努めながら、日課などのスケジュールに利用者の行動を無理にあてはめようとはせず、本人の生活リズムを優先し、利用者が過ごしやすいように支援している。建物は民家を改修しており、全体的にゆったりとした家庭的な雰囲気があり、東屋や茶室が隣接し、和風の趣がある。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、基本方針、基礎研修を基にテーマや課題をもって取り組み、振り返りを行ないながら、実際のサービスにつなげている。	法人共通理念の下、事業所独自に運営理念とサービス支援方針を定めている。法人主催の基礎研修からテーマを深く掘り下げ取り組んでいる。各職員の自己目標を職員会議で評価し、改善を加え次の介護支援に反映させるという方法で、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	普通の暮らしの中で散歩や買い物に出かけ、地域で何かあれば誘ってもらっている。近所の人とは隣同士として普通にお付き合いをさせて頂いている。公民館の鍵や除雪機の置き場所になっている。	自治会に加入し、資源回収や草取り、老人クラブ茶話会などの地域活動に参加する一方、事業所主催のバーベキューには住民が参加するなど、相互に交流がある。公民館の鍵管理、子ども110番、除雪機の置き場など少しずつ地域へ協力できることが増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	貢献はできていない。運営推進会議でも議題にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では主にサービスの実際を報告している。サービス向上に関しての意見があれば取り入れる。	民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族、地域住民で構成し、近隣の公民館を用いて年6回定期に開催している。会議では事故等の報告のほか、ホームが取り組んでいる運営上の課題等についても議論できるよう職員会議の概要等も示し、意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡は取っていない。主に事務的な手続きに関してのみである。利用者さんの暮らしに直結する制度上の問題は意見として出したり相談している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参画している。介護保険に関する手続き、生活保護受給者の相談など市の担当から指導や助言を得ており、円滑な協力、連携関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員が身体拘束廃止の内部研修を受け、実際、拘束に結びつくような現状はない。また、玄関の鍵は日中かけることなく自由に出かけて頂いている。、普通の暮らしの感覚で夜に鍵をかけるくらいである。	夜間以外は玄関を施錠せず、自由に散歩できるようにしている。職員は事務所内で行う基礎研修で言葉を含めた身体拘束のない介護を学んでいる。身体拘束および言葉による拘束をしないように心掛け、利用者が普通の暮らしを送れるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と併せ、高齢者虐待防止法についても全員が内部研修を受け取り組んでいる。また、利用者さんが日々不愉快な思いをしないように接遇も含め取り組みを進めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が必要に応じて提起したり、制度利用につなげている。全職員の学ぶ機会は作っておらず、個々の経験や知識に差がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまで、また、契約時に管理者が説明をし、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お越し頂いた時にお願しているアンケートの内容について、ご家族さんから助言を頂いたので見直しをしている。意見や苦情を汲み取れる努力は足りないと感じている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に運営会議を行い、提起できる機会を作っているが、もっと積極的な意見や意見の出やすい雰囲気が大切と感じている。	職員会議のほか、3か月に1回の職員面談を職員の提案や要望を聞く機会としている。日用品等の少額の買い物は、職員の判断に任せて欲しいとの要望に対応するなど、職員からの提案等を運営に柔軟に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法と就業規則を遵守。サービス残業は行わない、時間外労働は適正に行いながら賃金を支払うことになっている。業務的な仕事はやりがいにつながらないということを伝えながら進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材の育成については人間性を含めた成長を社長、専務が率先している。管理者のマネジメント力の低さとワンマン性が1番の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、取り組みをしていない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること不安も含め、どんな暮らしがしたいか？を中心に話しをしながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご意向、ご要望をお伺いしながら取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前にご本人、ご家族さん、サービス利用している担当者などから状況など伺いながら、できるだけご本人に合ったサービスの提供を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「その方の暮らし」としての支援を大切にしながら、安心して暮らして頂けるように努力している。業務的、機械的にな仕事にならないように意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私の願い(暮らしの支援計画)にも盛り込んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が少ない。また、支援への意識不足もある。	利用者の高齢化で、遠出する機会は減ってきているが、普段から地域の理美容室やスーパーに買い物へ出かけたりしている。頻繁にはいけないがなじみの店にこれまでの関係が継続するよう支援している。旧友が訪ねてくることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が支え合っている場面がある。できるだけ孤立しないようにはしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近所のご家族さんとは時々、会ったりしている。年賀状のやりとりをしている方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で「思い」を大切にしている。汲み取る努力をしている。困難な方には「その人らしく」「不利益がないように」を考えお手伝いをしている。	入居前から現在までの利用者の思いや、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。利用者が普通の暮らしができるよう、本人本位で考え、普通の暮らしができるよう職員はそのサポート役として取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どんな暮らしをしてきたか？関係している人、ご本人にもお伺いしてサービスに活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり自由に過ごす中で、記録もさせて頂き共有している。状況によりできないことなど、細かいことを共有することが難しい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の振り返りを全員で行っている。計画は「私の思いや希望」という名前で内容もわかりやすい言葉を使っている。計画の内容の深い意図が職員にうまく伝わっていないこともある。	本人本位を大切にしようという「私の思いや希望」というタイトルで介護計画を作成している。定期的に職員全員で振り返りを行って、場合によっては医療連携をしている訪問看護ステーションの意見も取り入れながら、利用者主体の計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の他、計画を振り返る際も、気づきや工夫の情報が収集できるようにしているが、実際、大切と思われることが情報として上がらないこと、情報が記録されていても埋まってしまい共有できないことがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	この1年、特別なことはないが、必要があれば、対応できる限り柔軟に支援をする方向である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーに普通に出かけたり、町内の回覧板を回したり、でたい方はお茶っこ会に参加している。中には一人で散歩している方もいて。地域の人が見守ってくれ何かあれば情報が入る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医をどこにするか希望を伺っている。また、病状により入院や救急受診ができる協力医療機関をお勧めしながら決めて頂いている。	利用者の病状に応じ、利用者と相談してかかりつけ医を決めている。受診の際は、職員が同行するケースが多いが、希望に応じて家族が同行するなど、柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さんきょう訪問看護ステーションと連携し水曜の定期訪問と24時間連絡体。助言や視点を頂き、支援の量的負担により小さい事はできないことも多いが、以前よりも協働できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんの暮らしを含め、思いや個性も伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りや重度化の方の重複、医療行為が必要な場合など契約時に説明している、実際の時期に主治医も含め方向を決めている。地域的に往診や訪問看護も利用しやすく、できるだけゆったりと安楽に過ごせるような支援体制になっている。	「医療連携体制に関する指針」を定め、指針に沿って主治医と連携し重度化や看取り対応を行っている。看取りを行った際は、職員全員で支援に対する振り返りを行い、訪問看護事業所の意見も得て今後の支援につなげている。	今後とも体制を整えながら、研修を積み重ね、職員の不安解消とスキルの取得・向上に取り組まれるよう期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが、まだまだスムーズとはいえない。災害時は近所の人との協力を得られるようにしているが地域としての協力体制はない。	避難訓練は年2回実施し、夜間・昼などとテーマを変えて行っている。避難経路、避難マニュアルを定めており、スプリンクラーは全室設置され緊急通報装置も整っている。避難訓練の際は、地域住民の協力もある。食料や石油ストーブなども備蓄している。	事業所の防災力を高めるためにも、地域の自主防災組織への加入に向けて取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を基本にわかりやすい言葉を遣うことを心がけている。下着類は人目に触れないようにしている。ホームの中でも周りに個人情報が出ないようにしている。着替えもタオルなどをかけている。	人生の先輩として敬意を払い、言葉遣いや振る舞いに意を用いている。今年度からは、よりよいサービスの向上を図るため、「接遇」をテーマに研修を行い、言葉遣いや対応の改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ちょっとしたことでも何がいいのか？どちらがいいのか？お伺いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはペースを尊重できているが、職員の都合になっている時があるので、意識付けとどうしたらできるか工夫や意見交換が必要と感じる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お手伝いの必要な方には服と一緒に選んだり、タオルを準備し顔を拭けるようにしている。化粧品や服など買いに出かけたり、美容室に行ったりしている。髪や爪が長くなり過ぎていくときがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の意識と経験によって違いがある。一緒に買い物に行き選んだり、冷蔵庫の中を見て相談している。作りたい物、食べたい物を食べられる支援を中心としている。	利用者の好み、食べたい物を優先し、買い物、献立、料理、配膳、下膳など全段階にわたって、利用者ができることはお手伝いしている。食事は職員も同じものを一緒に食べ、和やかな雰囲気づくりを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	固い物が食べられない方には、刻んだり、ミキサーをしてお出ししている。食欲がない方には好きな物をお勧めしたりしている。飲まれた量は大きめに記録し脱水にならないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせて歯ブラシ、スポンジなどを使っている。毎食後の習慣がない方は日に1回か2回されている。入れ歯の方にはポリドントをお勧めしている。お手入れの勉強をもっとする必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お手伝いの必要な方には、サイクルやご様子でご案内している。また、日中は下着にパットを使ったり、お一人おひとりに合わせ過剰なおムツにならないようにしている。	トイレは1階に2か所、2階に1か所ある。排泄表で利用者の排泄パターンを把握し、さりげないトイレ誘導に努めている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット使用など、本人の状況に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品で好きな物をお勧めしている。飲まれた量、食べられた量、お通じの記録は予防に活かしている。必要に応じてお薬を飲まれている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎回、希望を伺い入られるようにしている。お風呂に入られる回数は人によってバラバラである。	毎日午後14時～18時が入浴時間となっており、本人の希望する時間を優先している。介助を希望せずに入りたい人は、その人の希望に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くなっているのを見て「休みますか？」と声をおかけしたり、起きていたい人は居間でテレビを見たりしながら、その方に合わせている。消灯時間や起床時間の決め事はない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書をファイルにし確認できるようにしている。特に精神薬と睡眠薬は副作用の弊害があるので希望される方以外は飲まれていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の中でできることややりたいこと好きなことができるような支援を大切にしている。やりたいことがない方でもきっかけ作りはしているが、ぼ～としていることも多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って頻繁に出かけられるようにしている。スーパー、本屋、理美容室など気軽に外に出かけている。遠くへの個別の外出機会はこの1年の中で希望もなくきっかけも作れなかった。	本人の希望を優先し、自由に出かけられるように配慮している。本屋、スーパー、酒屋、文具店のほか、近所のリングの無人販売所に出かける利用者もいる。年間行事として紅葉狩りには網張、花見に都南中央公園などにも出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普通の暮らしの中でお金を持つことを使うこと、ご本人のお金に対する思いを尊重し、どう支援することがいいのか？を契約時にも相談しながら持てる方にはできるだけ持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をやりとりしている方への支援をしている。電話は取り次ぎや希望があれば自由にかけられるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家と変わらない間取りやしつらえになっている。廊下も含めところどころにイスを置いたり、台所でもゆったりと音楽を聴けるようにしている。近所の方から時々、花を頂くので利用者さんが生けたり飾ったりして少し季節も感じられるようにしている。	1、2階とも床暖房。1階の玄関から廊下、居間、台所までがゆったりとした空間になっている。居間の地窓からは東屋と茶室が見え、昔ながらの和風の風情が楽しめる。2階につながる階段には昇降機が備えられている。廊下の壁には利用者の俳句が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少しでも気の合う人同士と一緒に座ったり、ゆったりと好きな音楽を聴くことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使いなれた馴染みの物をお持ち頂くようにお勧めしている。	1階の6室は、ベッドと箆笥、2階の3室はベッドとクローゼットが備え付けである。持ち込みは自由で、仏壇や家族写真等が持ち込まれていた。スターのポスターなども掲示されており、それぞれ居心地よく過ごせるような工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じわかりやすいように張り紙をしている。わかりやすい場所にほうきを吊るしたり、冷蔵庫も自由に使えるように張り紙をしている。		